

## 人と自然が共存できる里山回復を目指した活動

### 梅雨入りが近づく

明日から6月、東海・関東も梅雨入りが近づきました。谷戸田は代かきが終わり、田植えを待つ状態です。畦の土中から泡に包まれたシュレーゲルアオガエルの卵塊が見つかります。小さなクリーム色の卵は泡の中で乾燥しないように保護されています。

昨年5月、ミズキの葉を残さず食べ尽すキアシドクガの幼虫が大発生。今年は昨年を上回る状態で成虫になった蛾がヒラヒラ乱舞、数日間で産卵済ませ、田んぼや畦にはたくさんの死骸が落ちています。



田植えを待つ水田



キアシドクガの幼虫に葉を食べ尽されたミズキ



キアシドクガの幼虫と成虫

### 活動拠点の生き物たち

コナラの老木が樹液を出し始め、甘酸っぱい匂いが漂っています。樹液にはヨツボシケシキスイが集まり、その場所にゴマダラチョウが割り込みました。

樹液酒場には密閉・密集・密接など規則はありません。昆虫たちは樹液の特等席を争い、壮絶なバトルを始めます。

トウキョウサンショウウオの産卵場所は成長した幼生が前後の足が出揃い、外部に突き出した鰓で水中呼吸して泳ぎ回っています。



トウキョウサンショウウオの幼生



ゴマダラチョウとヨツボシケシキスイ

### コロナウイルス後の生活

新緑がまぶしい、爽やかな季節にコロナウイルスの感染拡大で、楽しみにしていたゴールデンウィークは「外出自粛」という経験したことがない大きな制約を体験することになってしまった。

緊急事態宣言後、産業や経済、生活様式は一変して、日常生活を脅かす深刻な日が続いています。

緊急事態宣言が解除され、コロナウイルスが終息した後、生活様式は元に戻れるのでしょうか。

それとも社会的距離を確保する生活様式を維持して人に近づかない、向き合わない、小人数による会合、災害時の避難所対応など、これからの人間関係や心をつなぐ生活に課題が山積です。